

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(松阪市)の概要

9月23日(月)に松阪市の宮前まちづくり会館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「宮前地区まちづくり協議会」の皆さん10名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

Q.この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

○「飯Ne!! (いいね)」は「美し国おこし・三重」のパートナーグループに登録している。最近あったことであるが、飯高の「はぜの風」の協力もいただいて旧波瀬小学校で桑名から6家族、地元からも6家族の45人ぐらいでキャンプをした。飯高へ来てくれるのは4~5回目であり、街のおかあさん達との交流し、田舎で良い時間を過ごしていただいた。桑名の人達はとても活動的であり、飯高を気に入ってくれている。

○始めて飯高に来た子ども達は、最初はお母さんから離れようとしなかったが、だんだん溶け込んでいった。川遊びなどして、どちらが地元の子ともかわからないほど楽しく田舎に溶け込んでくれた。

○「SANさん会」は6年目であり、私は3代目の会長になる。宮前で結成して、色々

会で作り上げてきた。自分もだんだん年を取ってくるが、人と人の繋がりの中で地域でいっしょに活動して、同級生にも会えたし、色々な方と知り合いになった。今後、もっと輪ができると思う。最近、しみじみ良かったと6年経ってそう思う。

「良処会」で活動している。高校時代の同級生と知らないで活動をしていたこともあった。地域の活動をやるようになって、「何でこいつがいるのか」とびっくりしたこともあった。10年ぶりに会えた友もいる。今もつきあいが続いている。

会長として会を立ち上げて25年の歴史がある。10年かかった。下滝野は何もなかった。「何かやれ」と言われ活動を始めた。3年に1回のローテーションで地域で回し、夏まつりを企画し実行している。この間終わったが「こんな大変なことをみんながやっているのか」と言われるほどすごい祭りである。一度、知事も見に来てほしい。コミュニティの場の創設に一翼を担っている。たこやきを焼いたり、お父さん同士の親睦が図れ、「ローションずもう」とか「B1グランプリ」、とか「夜遅くの餅まき」などが好評であった。3年に1回まわってくるがとても楽しいし、毎年内容が違うところがおもしろい。

赤桶溪谷にはつつじが1000本ぐらい咲いている。そこで、毎年4月29日に行われている祭りで、まちづくりを何とかしようではないかと、新しいもの、形あるものがほしいということで、みんなが団結して参加できるものとして途絶えていた「とうふ」を焼いて「山椒みそ」をかける田楽を復活させた。子どものころから、その味を忘れていなくてとても美味しい。それを復活させようということで、婦人会の人に聞き、山に自生している山椒の葉っぱを取って、その葉っぱをすり潰して「田楽山椒」をほぼ再現した。生の葉っぱを使って、まぼろしの「田楽」を復活できたことが嬉しい。

宮前の「良処会」では地元の神社で秋まつりがある。盆おどりを復活させた。今年は竹を切って口ウソクの台を作った。2013年にちなみ2013個を各家庭で手分けして作った。一人あたり70個の竹を作った。1カ月前から毎晩竹を切っていた。当日は盆おどりもたくさんのお客さんが見えた。結果として良かったことは、竹切りで今まででてこなかった人が出てくれるようになった。

自分たちが活動しはじめた「飯Ne!!(いいね)」の仲間たちと、「飯高はいいな」「飯高好きやわ」と話し合えるのが嬉しい。飯高の中で友達が繋がったのが嬉しいことである。みんなが、こんなことがしたい、あんなことがしたいと言い合える、「ゆるい関係」が良い。自分が好きなことで繋がっていき輝けるようにしたい。他の地域からみえた時は田舎の良さを知ってもらいたいと思う。「美し国おこし・三重」のグループとも繋がって嬉しかったし、行政の方とも知り合えて嬉しかったし嬉しかった。飯高全体にこれらが広がったらいいなと思う。

田楽や赤桶の盆踊りの復活は年寄りから喜ばれた。自分達がやろうと思ったことが復活でき若い人と年配の方々との交流も大事なのかなと感じている。

盆おどりのメインボーカルとして、頑張った。太鼓も生で歌も生であり、見よう見まねで、見習い中でやっている。

働くお母さんのための「放課後児童クラブ」をやっている。毎年代表が変わるため4月から代表をやらせてもらっている。結構大変なところが多いが、良いところと言うと、指導員4名と地域ぐるみで子どもを支えている。友達ぐるみで支えている

地域であり、いいところを今後もアピールしていきたい。何かあってもみんなが伝えてくれる感じが良い。安心して子どもを育てられる地域だと思う。

私のモットーは、「人が喜ばれることに喜びを」である。この前「映画」の試写会を地域でやった。自慢1割お願い9割だが、みんなにとっても喜ばれた。「毎日がアルツハイマー」という映画である。中学校の人権教育に役立つということで、中学校全校生徒と一般のお年寄りとが合同で鑑賞できた。

歴史街道ウォーキング街道、地域の出あい等で整備した看板を、30本ぐらい作ったことが新聞に取り上げていただいた。それから広がりを見せて、観光バスが来るぐらいになった。地域としては、旧和歌山藩の領地でありどんどん人も来た。それで飯高駅の集客に繋がってきている。イベントの話があったが、当初は出あい方式でみんなが出なければいけないという話もあったが、息子と親では話があわないことが多い。年寄りは、資金の工面、対外折衝を行い、若者との役割分担をし、若者はイベントの運営にと棲み分けた。イベントは今まで、8回から9回やったが若い人がだんだん物事をまとめることが上手になってきた。

Q,この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝いがしてほしいなどありませんか？

東日本大震災の被災地を題材したことや人権のことを考えた西田敏行主演の映画「遺体」を先日見た。昨年も地域で阪神大震災の映画の試写会を行った。地域のコミュニティの場を作っていくことはとても大切なことである。今年も是非この映画の上映をやりたいが費用面のことが課題である。昨年度のもので、20万円の費用がかかる。昨年は地元の企業が協賛してくれて実現できた。今年度の映画であれば、10万円かかると言われている。県のライブラリーにそういう映画を買っていただいて、各地域に貸し出していただけるとありがたい。地方の人権教育の促進の観点からも、県の支援をお願いしたい。

地元にも飯南高校があり私もその卒業生である。この高校は中高一貫教育という特色ある学校であり、定員が80名でそのうち半分も地域出身者が入学していないのが現状である。10年後には子ども達が少なくなるので、はたして、この高校が残っているのか不安である。この地域の産業は林業であり、でも林業だけでは飯が食べられない状況である。だから町から出ていく。出ていかなくするためにも、飯南高校を林業に特化した高校にして、そこを出たら必ず林業関連に就職できるなどモデル事例として工夫をしてほしい。

放課後児童クラブの話であるが、この地域は世帯が少ない中でやっている。9世帯で子どもは14名いる。半分くらいは来てもらっている。働くおかあさんのための学童なのに、その方たちが役員をやっているのが現状である。書類の作成等いろいろあるため、とても忙しい。ほとんどボランティア的な感覚になっいる。委託金をいただいて運営している感じであるが、ぎりぎりの運営でやっている。今年から子どもたちにはおやつが出ない状態で、色んなところをカットしなければいけない状態になっている。これ以上、お金をカットされると運営が厳しい。子どもが少なくなっている現状でも、利用を希望する人達はいるので繋げていきたいし、そういうところを考えてほしい。

【知事の発言】

地域で子どもを守るということは、地域の皆さんが地域の子どものことを小さい時から知っているということ、とうちゃん、かあちゃん、じいちゃん、ばあちゃんまでも知っていることは、非常に安心である。

若者と中高年の役割分担を行ったことによって、若者に「まとめ力」がついてきた。できそうでできないことであると思う。地域によってはリーダーが若者に譲れないところもあるが、なかなか良い取り組みである。

以前は、社会福祉協議会にご協力いただいて県内各地で「エクレールお菓子放浪記」という映画をやってもらった。県内29市町のうち27の市町で上映していただいた。石巻が舞台で宮城県よりも、三重県で見ていただいた方が多かった。入場料1000円のうちの100円が寄付に回るしくみであった。映画で知ってもらうことや啓発、映画の威力が解っているので、視聴覚ライブラリー等に置くことができるのが手っとり早いのか、人権講演会のメニューとして県が採用するのか。人権の担当のところに伝えておく。

高校の統廃合や存続は、子どもの数が減少する中で、県全体、特に南部や中山間地域は課題として挙がっている。そこに通う子どもにとって、生徒の数が減る、やりたい部活ができないなど、子どもの教育効果の観点で、どうするのがいいのかを考えなければいけない。今も鳥羽・志摩・度会・名張・東紀州とか協議会を持って議論している。地域にとって特色ある学校として残していくことも選択肢かもしれない。飯南高校もあと2～3年で協議会をやらせてもらうことになるだろう。なるべく早く、学校の方向性を子ども達に伝えてあげないといけない。県としてこうじゃないといけないというのはないので、答えを押し付けるような協議はしない、みなさんの意見を聞いてしっかりやりたい。

放課後児童クラブの問題で、特に我々が気にしているところは、1つの施設あたりのお金は豊富にあったほうがいいけれども、ちゃんと小規模なところでもそこにニーズがあれば運営していけるようにしたいというのが今一番の関心事で、国の放課後児童クラブの補助金は10人以上しか出ない。国には5人から9人の施設も、出せるようにしてくださいとお願いしている。あわせてそれが今無理なら、最近できるようになったのは、中身は別の運営だけど広域で2つの学童を1つと見なしたら補助が出るようにしているので、そういうもので補助金、運営費を確保していくことを考えてほしい。障がいを持ってる子でも受け入れて、指導員の人安心して受け入れられるよう特に力を入れてやっている。運営されてる役員の方々も頑張っているから、しっかりやっていきたい。

皆さんの話をお聞きした。たくさん課題がある中で、皆さんの好き好きオーラが嬉しい。自分の地域が好きな人がたくさんいるほど、外からたくさん人が来るといって旅行雑誌の研究があり、自分達がこの地域を好きになることが大事なんだとお話を聞いて実感した。世代を越えて好き好きオーラを持っていただきたい。



【宮前地区まちづくり協議会の皆さん】とは

地域の少子高齢化社会、地域分権の時代に対応し、コミュニティの増進とまちづくりの推進、ボランティア活動など、住みよい宮前地区を創造するための活動を行うため、地域の住民や組織団体と協議し、行政と共に自らの責任において、地域活動を行うことを目的としている皆さんです。